第３１５回　令和８年１０月２３日（金）

「判断とスピードの関係について」

判断にはスピードが求められるものと熟慮が必要なものがあります。時間がかかってしまうと正しい判断をしても無意味になってしまうことがあります。

東日本大震災の大川小学校の悲劇は記憶を風化させてはいけない教訓です。地震発生から 50 分近い判断の時間がありながら、最終的に遅れてしまい、学校の裏には徒歩 1 分もかからない山があったにもかかわらず多くの生徒や教職員がグラウンド近くで津波に飲まれました。

災害で生命に関わる判断ですから間違ってはいけないと感じるのはもっともです。しかし正しい判断をしたとしても時間がかかることで全てが無駄になってしまう例です。

ここに時間の難しさがあります。津波の到達時間を正確にわかっていた人間はいません。「来ない」という可能性や、逆にもっと早く来ていた可能性もあります。可及的速やかに判断することが絶対必要なケースです。ベストではなくベターを瞬時に考えることが大事になります。

時間というのは非常に厄介です。集中していると時間を忘れてしまう経験は誰しも持っていると思います。テストで気がつくと残り時間が無くなっていたとか、楽しい時間があっという間に過ぎてしまうとか。

災害や集中して作業に当たるケースも同じです。脳がフル回転している時間は短く感じます。おそらく大川小学校でも判断に迷っていた管理職にとって 50 分という時間は通常の時計通りには感じなかったはずです。

バスケットなどのスポーツでもシュートをするか、パスをするか、ドリブルをするか、瞬時に判断する必要があります。ベストの選択ができるに越したことはないのですが、結果オーライのこともたくさんあります。その都度修正し、試合中にベターな選択はどれか、体が反応していくようになります。

社会に出ても、時間がかかるのなら８０％で十分という場面はたくさんあります。完璧主義でノーミスを求めてタイムマネジメントを失敗することで成果を出せない人もたくさんいます。

ビックプロジェクトで様々な人の意見を聞いたうえで熟慮を経た判断が必要な場合もあります。このケースはスピード重視か正確性重視か、それを見極める力が非常に重要です。

また上司はスピード重視の判断で結果を責めてはいけませんし、正確性が求められる判断において雑な結論を出したら注意しなくてはいけません。それが今後の選択を見極める力につながっていきます。